

愛知県におけるスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生と分布の推移

2018年10月作成

1. 発生初期の分布状況

全国におけるスクミリンゴガイの水田作物の被害は昭和59年(1984年)から顕在化し、昭和60年(1985年)になると九州各地で被害をもたらした(宮原 1987)¹⁾。

愛知県では、昭和60年(1985年)10月1日に豊橋市で初めて確認され、当時の愛知県病虫害防除所が昭和60年(1985年)12月25日に病虫害発生予察特殊報を発表した。その後、スクミリンゴガイに関する詳細な調査が行われ、平成元年までに16市町村(当時の区分による)で発生が確認された(表)。発生当初、豊橋市、小坂井町、十四山村などで、いずれも用排水路で最初に見つかり、その後、水田やレンコン田でも確認された。当時の調査によると、水田におけるイネの被害は発生面積に比較して大きくはない。昭和61年(1986年)における水田での発生面積は0.3 ha、62年(1987年)が32.2 haとなっているが被害はなく、昭和63年(1988年)における発生面積は133.0 ha、被害面積が10.0 ha、平成元年(1989年)の発生面積は236.4 ha、被害面積は6.6 haとなっている。

1) 宮原義雄(1987) スクミリンゴガイ その生態と被害、武田植物防疫叢書 第5巻、武田薬品工業株式会社、東京、p.1-22.

表 平成元年(1989年)時点でスクミリンゴガイが確認された市町村と初発生が確認された年月日及び生息する農地利用区分

市町村名	初発生の確認年月日	確認された農地利用区分		
		水田	レンコン田	用排水路
豊橋市	昭和60年10月1日	○	○	○
小坂井町	昭和60年10月1日	○	○	○
十四山村	昭和61年7月16日			○
田原町	昭和61年7月21日	○	○	○
西春町	昭和61年8月25日	○	○	○
豊川市	昭和62年5月11日	○	○	○
飛島村	昭和62年8月4日	○	○	○
佐屋町	昭和62年9月1日	○	○	○
立田村	昭和62年9月11日	○	○	○
津島村	昭和62年5月11日			○
春日村	昭和62年9月27日			○
名古屋市	昭和62年9月27日			○
新川町	昭和62年9月27日			○
弥富町	昭和63年10月1日			○
扶桑町	平成元年9月13日	○	○	○
大口町	平成元年9月13日			○

※平成元年11月22日に扶桑町で開催された「スクミリンゴガイ発生に伴う防除対策説明会」

で用いた資料を改変

※市町村名は平成元年における区分で表記した

2. 近年の発生動向

愛知県では、平成21年以降、毎年6月下旬と7月下旬の2回、県内各地の157筆の発生予察調査ほ場におけるスクミリンゴガイの発生状況を調べている（図）。全体の発生ほ場率についてみると、調査開始時の平成21年（2009年）は9.0%であったが、徐々に高くなり平成24年（2012年）には23.6%になった。発生ほ場率はその後も少しずつ上昇し、平成28年（2016年）に32.5%に達したが、以降はやや下がっている。

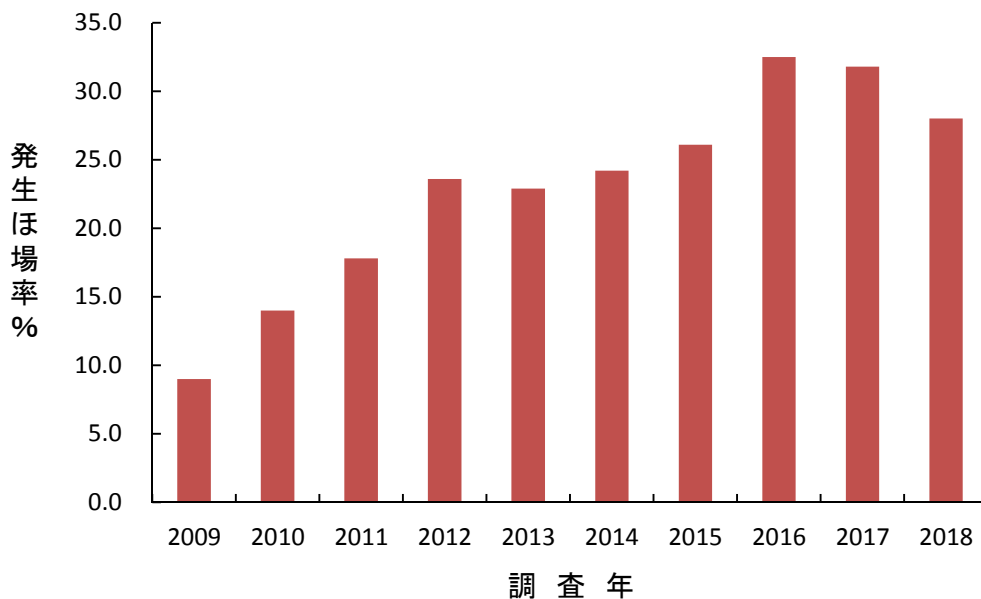


図 愛知県におけるスクミリンゴガイの発生ほ場率の推移
(県内157筆の水田の7月下旬を調査結果を集計)

地域別にみると、尾張と東三河では調査開始当初から発生が確認されており、昭和60年代の発生初期を反映した結果となっている。尾張の知多地域では、東浦町や南知多町で平成27年（2015年）以降に見られるようになった。西三河では平成22年（2010年）に西尾市、その後、平成24年（2012年）に碧南市や岡崎市、平成27年（2015年）以降は豊田市南部でも発生が確認された。一方、豊田北部や奥三河地域では、一部水田で一時的に見られたのみで、常発地はない。

3. 今後の注意点

尾張や東三河の常発地域でも、毎年、同じほ場で必ず発生するとは限らず、おそらく、農薬や耕種的な防除で発生が抑制されていると考えられる。スクミリンゴガイによるイネの食害はほとんど見られず、実害はあまりないと思われる。但し、未発生地域にスクミリンゴガイが侵入した場合には、対応が遅れイネが食害を受ける可能性があるため、分布が拡大しないよう注意が必要である。